



【 訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（後編） 】

『事業所の「あるある課題」と「ICT導入のメリット」』



介護経営ドットコム



株式会社ケアモンスター

代表取締役 田中 大悟

社会福祉士・介護支援専門員



職歴

1998年 医療法人 整形外科病院 MSW (名古屋市)
 (22-28歳) 老人保健施設 支援相談員 (老健施設:2施設の開設に関わる)
 (28-30歳) 居宅介護支援事業所 管理者 兼 介護支援専門員

2006年 社会福祉法人 特別養護老人ホーム (石川県小松市)
 (30-31歳) 経営企画室:生活相談員 兼 介護支援専門員

2007年 医療法人 脳神経外科病院 (石川県金沢市)
 (31-35歳) 地域連携室 主任 MSW / 居宅介護支援事業所 介護支援専門員 兼務
 地域連携室の立上 / 退院支援・退院調整 / 病診連・病病連窓口(紹介状管理・データ化)
 回復期病棟立上げ / 病院機能評価対応 /
 ベッドコントロール(医師の入退院の予定と実績のデータ化)/医療経営を学ぶ

2011年 医療法人 小規模診療所 理事 / MS法人 取締役(石川県小松市)
 (35-38歳)

小規模診療所を中心とした地域包括ケアシステムの構築をテーマに下記介護事業の開設・運営を行う
 住宅型有料老人ホーム:3事業 / 訪問介護:1事業 / 居宅介護支援事業:1事業
 通所リハビリ:1事業 / 訪問看護:1事業 / 訪問リハビリ:1事業 / 通所介護:7事業
 認知症共同生活介護: 1事業

2014年 合同会社JAPAN UNITED HOME CARE 設立
 (38歳~) たなかだいご介護・福祉相談室 開設 (独立型社会福祉士事務所)
 居宅介護支援事業所の運営・コンサル事業・セミナー事業

2018年11月 株式会社ケアモンスター 代表取締役 (社名変更)
 今の福祉事業の概念を壊しながら、「新しい価値」と「新しい仕組み」を創造する！！

2012年09月 (石川県)加賀脳卒中地域連携協議会 理事

2013年12月 日本介護福祉経営人材教育協会 北信越支部 理事

2017年03月 日本デイサービス協会 監事

著書**2017年1月** 介護施設での生活相談員の仕事 (ナツメ社)

訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（後編）

『事業所の「あるある課題」と「ICT導入のメリット」』

目次構成

はじめに.....	04
1:「資源」を無駄に使わない為の5大資源の理解	05
2: 管理者や職員が感じている「あるある課題」.....	06
3:「あるある課題」の解決例 (ICT導入のメリット).....	10
おわりに.....	14

ICT導入に向けての管理者さんの頭の中のモヤモヤ・・・

業務効率化って、
何をどうする？

ICT導入前の
課題って？

ICT導入の
メリットって？



訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（後編）

『業務効率化を進める前に理解しておくべき視点』

1:「資源」を無駄に使わない為の5大資源の理解

業務効率化を考えた時に、
これらの資源を、
目的や目標達成の為に、
無駄に使うことなく、
有効に活用できている姿
が「あるべき姿」
として考えられます。

ヒト

- ・ヒトは、経営資源の中で最も重要なもの
- ・ヒトがいてカネが動き、ヒトがいて仕組がつくられ、ヒトがいて情報が集められる

モノ

- ・事務所、設備、備品等、社用車、土地等の有形財産
- ・パソコン(ソフトウェア)、システム、規定など
- ・知識やノウハウもマネしにくい資源

カネ

- ・事務所等の賃貸料、社員の給与、備品の購入費用
- ・新規プロジェクトを立ち上げる際の運転準備費用
- ・借入金、株式 等

情報

- ・顧客情報、市場の動向等の無形財産
- ・著作権や特許、技術、ノウハウ、統計データ等
- ・情報は無形だが、売却することも可能

時間

- ・時間はすべての人に平等に与えられています。
- ・限りある時間で、新サービスを作り出せるかが重要
- ・能力差異がなければ「早さ」が結果を左右する！

訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（後編）

『業務効率化を進める前に理解しておくべき視点』

2: 管理者や職員が感じている「あるある課題」



資源を無駄遣いしているかもしれない…



訪問看護ステーションにおける
(※ICT機器などが未導入の事業所)
資源の有効活用ができていない事例として

- ①: 管理者が感じる「課題」の事例
- ②: 看護師が感じる「課題」の事例
- ③: 組織が感じる「課題」の事例

訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（後編）

『事業所の「あるある課題」と「ICT導入のメリット」』

2-①: 管理者が感じる「あるある課題」の事例

考えられる資源の無駄使い



: 非効率



: 効率が良い



業務項目	あるある課題	ヒト	モノ	カネ	時間	情報
① サービス提供票の確認と読み込み	・紙媒体で頂いた情報を、 <u>転記しており管理者の限られた業務時間がとられる</u>					
	・紙媒体の資料が時間とともに増え、 <u>保管場所が必要になる</u>					
	・確認したい紙媒体の提供票から <u>その都度、探さないといけない</u>					
② シフト作成・変更・管理	・希望休の確認を紙で提出、 <u>目視で集計し、調整する為、作成に時間がかかる</u>					
	・変更があるたびに、 <u>一人ずつ交代が可能か電話等で確認し時間がかかる</u>					

訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（後編）

『事業所の「あるある課題」と「ICT導入のメリット」』

2-②: 看護師が感じる「あるある課題」の事例

考えられる資源の無駄使い



: 非効率



: 効率が良い

業務項目	あるある課題	ヒト	モノ	カネ	時間	情報
①シフト確認・変更依頼	・事務所のホワイトボードで目視で確認。 <u>事務所に行かないと確認できない</u>					
	・変更希望を電話や紙で提出、管理者が確認し、 <u>変更調整する時間がかかる</u>					
②サービス提供の記録作成と情報共有	・事務所に戻らないと、記録作成がでず、 <u>転記作業が発生し時間的に無駄が出る</u>					
	・利用者情報を確認(共有)する為に、 <u>事務所でカルテを見なければならない</u>					
	・褥瘡や創傷などの状態を記録・共有 したい場合も同上					



訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（後編）

『事業所の「あるある課題」と「ICT導入のメリット」』

2-③: 組織が感じる「あるある課題」の事例

考えられる資源の無駄使い



: 非効率



: 効率が良い

なんとなく、「ヒト」と「時間」という資源の使い方に工夫が図れることで業務効率化が図られ生産性の向上が図れそうな気がしてきませんか？

業務項目	あるある課題	ヒト	モノ	カネ	時間	情報
① モニタリング・報告書の作成・配布	・ <u>事務所に行かないと(時間的に無駄)報告書の作成や確認ができない</u>					
	・ <u>配布の場合: 労力と時間がかかる</u> ・ <u>郵送の場合: お金がかかる</u>					
② 月末月初の業務について	・ <u>サービス実績の確定時: 紙の提供票に「1」と記載。それを管理者が転記</u>					
	・ <u>給付管理時: 管理者が紙媒体資料を確認・集計し給付管理データを作成</u>					
	・ <u>利用料計算時: 管理者が紙媒体で集計し、請求書・領収書を作成</u>					



訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（後編）

『業務効率化を進める前に理解しておくべき視点』

3:「あるある課題」の解決例（ICT導入のメリット）



ヒト

モノ

カネ

情報

時間

ICT導入で働き方が変わる？！



訪問看護ステーションにおける
(※ICT機器などが導入済みの事業所)
資源の有効活用ができるようになった事例として

- ①: 管理者が感じる「ICT導入のメリット」の事例
- ②: 看護師が感じる「ICT導入のメリット」の事例
- ③: 組織が感じる「ICT導入のメリット」の事例

訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（後編）

『事業所の「あるある課題」と「ICT導入のメリット」』

3-①: 管理者が感じる「ICT導入のメリット」の事例

考えられる資源の無駄使い



:非効率



:効率が良い

業務項目	あるある課題	ヒト	モノ	カネ	時間	情報
①サービス提供票の確認と読み込み	訪問看護ソフト活用⇒データ転送から読込でき、時間をかけず登録できる					
	訪問看護ソフト活用⇒紙媒体が少なくなり、場所の資源を有効活用					
	訪問看護ソフト活用⇒データから時間をかけずに検索できる					
②シフト作成・変更・管理	シフト管理ソフト等の活用で、自動作成やシフト課題が自動集計					
	グループチャット機能等の活用で、変更希望一斉配信、交代可能職員がチャットへ返信					



訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（後編）

『事業所の「あるある課題」と「ICT導入のメリット」』

3-②: 看護師が感じる「ICT導入のメリット」の事例

考えられる資源の無駄使い



: 非効率



: 効率が良い

業務項目	あるある課題	ヒト	モノ	カネ	時間	情報
①シフト確認・変更依頼	訪問看護ソフト活用⇒(場所を選ばず) 訪問予定はタブレットで確認可能に					
	グループチャット機能等の活用で、変更希望 一斉配信、交代可能職員がチャットへ返信					
②サービス提供の 記録作成と情報共有	訪問看護ソフト活用⇒(場所を選ばず) 訪問記録はタブレットで作成可能に					
	訪問看護ソフト活用⇒(場所を選ばず) 利用者情報はタブレットで共有可能に					
	訪問看護ソフト活用⇒(場所を選ばず) 利用者情報はタブレットで共有可能に					



訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（後編）

『事業所の「あるある課題」と「ICT導入のメリット」』

3-③: 組織が感じる「ICT導入のメリット」の事例

考えられる資源の無駄使い

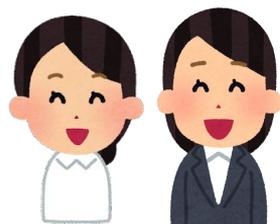


: 非効率



: 効率が良い

業務項目	あるある課題	ヒト	モノ	カネ	時間	情報
① モニタリング・報告書の作成・配布	訪問看護ソフト活用⇒(場所を選ばず)報告書等はタブレットで確認可能に					
	グループチャット機能等の活用で、報告書等を一斉配信、又配信履歴等も一括管理					
② 月末業務について	訪問看護ソフト活用⇒転記することなく、日々の記録作成で実績は自動集計					
	訪問看護ソフト活用⇒転記や再集計することなく、日々の記録作成で給付管理データは自動集計され、利用料も自動計算					



ICT機器の活用に関しては、個人情報保護委員会・厚生労働省：「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」、厚生労働省：「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」等を遵守すること。

今回は、「訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（後編）」として、『事業所が感じる「課題」と「ICT導入のメリット」』に焦点を当ててお話をさせていただきました。

「業務効率化」や「生産性の向上」に向けての、組織課題を改善する上で何らかのヒントが得られたとすれば、大変うれしく思います！

また、こちらの研修動画のほかに

「訪問介護・訪問看護事業所の業務効率化（前編）」

『業務効率化を進める前に理解しておくべき視点』の研修動画も

ご用意しております。こちらの研修動画についても、ご視聴いただくことで、「業務効率化」や「生産性の向上」に向けての、課題抽出の視点が深まると思われますので、必要に応じてご視聴いただけましたら幸いです。

ご視聴ありがとうございました